

蒔田ひまわり保育園の自己評価

長期にわたる新型コロナウイルス感染症の流行期における閉塞感が解消され、子どもとの距離感を過度に気にすることなく過ごせたことは本当に良かったことと思いつつ、改めて、人の温もりの大切さについても実感しています。今年度も感染症への意識を継続し、子どもたちの健康管理に役立てることができました。

●今年度の取り組みについて

1. 食育をとおして遊びの中では出来ない経験を積む
2. 静と動を取り入れたメリハリのある保育を意識する

●取り組み内容

1. 食育をとおして遊びの中では出来ない経験を積む

食育推進係（職員）が LEOC さんと連携を図り進めることができました。一部は、昨年度と同じ内容の食育を継続したことで、子どもたちは記憶を思い起こし、新たな視点で考え知る得る機会になりました。また、食することが、体の成長に役立つことへの理解にも繋がりました。

季節に合わせた食材や年齢に沿った食育内容は、ご家庭ではできない体験になったことと思います。栽培活動では食材を育てる苦労や収穫の喜びを知り、食べ物大切さについて考える場になりました。

2. 静と動を取り入れたメリハリのある保育を意識する

各学年（クラス）が、子どもたちの様子や体調を考慮し、静と動のバランスを考え、保育活動を行うことができました。静と動を取り入れることで、安定した生活リズムの獲得に繋がり、子どもたちの集中力を高め「もっとやりたい」という向上心を見ることもできました。また、保育者も他のクラスの活動を参考にし取り入れることで、保育を考える機会にもなりました。

4. 来年度について

食育活動への取り組みは、「わくわくする給食」をスローガンに掲げ3年目を迎えます。保育士と栄養士の意見交換による食育の工夫は、子どもたちの日々の生活において十分に生かすことができている。今年度の経験を活かし、本園ならではの食育活動をさらに深めていきたいと考えています。子どもたち自身が、「やってみたいな」、「やってみよう」、「できた」、「楽しかった」など…の気持ちを育むことを楽しみにしながら、積極的に挑戦できるような保育を続けていきたいと思っています。

令和6年度目標

1. 食育をとおして遊びの中では出来ない経験を積む *令和5年度内容を継続
2. 異年齢保育をとおして協調性や社会性、他者を尊重する心（思いやりなど）を育む
3. 子ども主体性を引き出し、保育士は子どもたちと共通の目標を持つことで、子どもたちが自ら挑戦したり、個性を尊重する環境作りをする